

第3回国連防災世界会議 開会式 安倍総理挨拶

- 「第3回国連防災世界会議」開催にあたりまして、世界各国からのご来訪の皆様に対しまして今から歓迎の意を表したいと思います。
- 2011年3月に発生した東日本大震災は、約2万人の犠牲者を出し、国民生活に多大な影響を及ぼした未曾有の大災害でした。世界中から、救援チームの派遣や義援金など、多大な支援をいただいたことは、我々の心に強く残っています。改めて、感謝を申し上げます。そして、皆様の御支援を起点として、地域の懸命な努力により、復興が進んでいることを報告いたします。
- 災害の多い日本では、古くから災害対策に取り組んでいます。400年前に、今の東京が築かれた際にも、60年かけて河川を付け替え、人々を水害から守りました。土木技術が発展していない時代の河川の付替は困難を極めたでしょう。
- 日本が提唱する「Build Back Better」（より良い復興）は、言葉は新しいのですが、我々が古くから取り組んできたことです。水害を例に申し上げれば、洪水被害を受けるたびに、治水計画を見直す、堰を強化する、排水路を整備する、防災教育を徹底するなどの「Build Back Better」を実践した結果、千人を超える死者数を出す洪水が頻発していた60年前に比べ、近年は百人を超える死者数の洪水は殆どありません。
- また、日本には、津波の経験から生み出された、「身を守る言い伝え」があります。津波の時は、各人が自分を守ることを考え、それぞれが早く高台に避難せよ、という教えです。離れている家族も同じ行動をすることを信じ、高台で生きて再会するようにすることで、皆が逃げ遅れないようにする、という知恵です。
東日本大震災でも、この教えを学んでいた生徒たちが、自ら避難を始め、年少者を助けながら避難し、多くの命が救われました。

- 前回の兵庫での会議以来、世界の防災の取組が進展する一方で、カシミール地震、ミャンマーに上陸したサイクロン・ナルギス、中国・四川大地震、ハイチ地震など、多くの災害がありました。これらの教訓を共有し、つないでいくことは大切です。

- 今回の会議では、こうした同時代における各地での経験、時代を超えた教訓を分かち合いながら、「兵庫行動枠組」に基づく各国の取組、最新技術の活用や幅広い関係者を含めた取組などの議論を行い、今後の枠組を策定します。兵庫の結果を仙台につなぎ、そして世界の枠組とします。皆様の積極的な議論への参加を歓迎し、実りある会議となることを心より祈念いたします。

- 最後に一言、せっかくの機会でありますから、東北地方の豊かな自然、歴史、文化、食、人々の暮らしといった魅力をぜひ堪能いただきたいと思います。東北の各地に訪問いただければ、復興への励みとなりますので、よろしくお願ひしたいと思ひますし、皆様を大歓迎したいと思ひます。ありがとうございました。Thank you very much.